

「第4回抗菌薬適正使用に関するセミナー」主旨

【活動目的】

学会会員を対象とした抗菌薬適正使用支援チーム（antimicrobial stewardship team：AST）に関する教育

【活動主旨】

2020年に開始した本セミナーは、2015年にWHOから「Global action plan on antimicrobial resistance」が発出されたことに端を発し、日本でも策定された「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン 2016-2020」に基づき抗菌薬の適正使用支援業務に従事するすべての医療従事者の知識・技能の向上を目的に今年も開催を致します。

2022年抗菌薬の使用量については、2013年と比較して約31.5%の減少となりました（全国抗菌薬販売量サーベイランスより）。徐々にですが減少しており、広域内服抗菌薬のセファロsporin系薬、マクロライド系薬、フルオロキノロン系薬も減少しています。しかし、近年は抗菌薬のサプライチェーンが不安定となり必要とする抗菌薬が出荷調整となることに対して、臨床ではより一層の抗菌薬の適正使用が求められています。またCOVID-19の勢いは衰えてきましたが、平時からの新興再興感染症へのリスクマネジメントの重要性は増すばかりです。

すなわち、AMR対策には終わりがなく抗菌薬の適正使用支援の取り組みを各施設で各職種が継続していくことが有事への備えとなります。

この目的を達成するためには、より一層、各職種が結束を高めて、目の前の患者のため、今ある抗菌薬が今後も抗菌薬として存在できる未来を共通目標として、抗菌薬適正使用支援（Antimicrobial Stewardship：AS）プログラムの本質を理解した上で、最善の力を発揮する必要があります。

本セミナーの参加者は第1回85名、第2回120名、第3回135名の参加を頂きました。参加者からの意見を基に、内容を更に充実して第4回セミナーの開催をご連絡申し上げます。本コースのセミナーは感染対策向上加算の算定有無に関わらず、これからAST活動を始める施設、ICTがAST活動を兼ねる施設、ASTを構成する医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師等のメンバーを対象に昨年と変わらぬテーマで準備いたします。このメンバーすべてが必要な基礎知識を習得した上で活動することにより、効果的に各職種の専門性を発揮することでAST全体がレベルアップし、結果として抗菌薬適正使用を継続して実施できると考えます。

今年もWebと現地での開催を企画いたしましたので、ご施設のメンバーもお誘いあわせの上、ご参加いただくようお願い申し上げます。

「第4回抗菌薬適正使用に関するセミナー」スケジュール

- 10:00~10:10 総論 森兼 啓太
ASTに関する考え方、構成職種とそれぞれの役割などに関して、本コースの導入となる総論的内容を述べる
- 10:10~11:00 抗菌薬の薬理、体内動態、副作用 西 圭史
各系統の抗菌薬の特徴を薬理や体内動態を交えながら、基礎的で重要なポイントに絞り難しくならないように述べる
- 11:00~11:10 休憩
- 11:10~12:00 微生物検査 佐藤 智明
微生物検査室がない施設においても、抗菌薬適正使用に微生物検査を活用するため、微生物検査の流れと検査結果の読み方(解釈)について述べる
- 12:00~13:00 昼食
- 13:00~13:50 感染症診療の基礎 細川 直登
主訴や現病歴、身体所見から感染症のフォーカスや起因病原体の推定に至る、一連の感染症診療の流れを述べる
- 13:50~14:40 抗菌薬の選択 池谷 修
抗菌薬のスペクトラム、薬剤耐性菌と抗菌薬、細菌検査結果に基づく抗菌薬の選択、感染臓器と抗菌薬などASTに必要な抗菌薬の選択について解説する
- 14:40~15:00 休憩
- 15:00~15:50 感染症に必要な統計、疫学 丹羽 隆
プロセス指標、アウトカム指標につながる抗菌薬の集計法とこれらをいかに評価するかについて述べる
- 15:50~16:40 ASTにおける看護師の役割 四宮 聡
看護師が、抗菌薬適正使用とどのように関係し、ASTの一員として活動しうるのかについて述べる。
- 16:40~17:10 総合討論 小野 和代(総合司会含む)